

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

## Six-wheeler struts its stuff

オーストラリア

## 6輪車が能力を見せつける



クイーンズランド州の牧草地に堂々と現れた怪物のような6輪車は、農業機械の設計に定評のある企業の製品だ。

この怪物、発売日が見えない未来的なコンセプトというわけではない。バンダバグにあるグリーンブス・エンタープライズ社によると、すでにオーストラリアで最大規模のメロン生産者が特別仕様の大型トラックの購入に意欲を示しているという。

基本的には、購入者の事情に合わせて機械をオーダーメイドできる。車幅が2・5mあるおかげで、大型スプレイヤを搭載したり、サトウキビの運搬車や自走式の穀物収穫機走トラクタとしても利用したりできる。このメロン生産者の希望は、除草剤や養分を液肥と同じように散布するための専用機だったとグリーンブス社の広報担当は話す。

キャタピラー社製の430馬力C13エンジンはアリソン社製の自動パワースhift変速機に接続する。足回りにはアライアン社製の高速幅広タイヤ650/65R38が採用され、土壌の踏圧を最小に抑え、さまざまな牧草地の条件に適応できる。オペレータは運転席を離れることなく、搭載した最新式の電子機器によって逆方向に送風機を動かして車両の冷却システムを自動洗浄する。

60年代後半、同社はサトウキビ運搬用の車両を初めて製造したことをきっかけにバンダバグの地元で広く知られるようになった。以来40年間、グリーンブス社が製造する特殊な農業機械はクイーンズランド州の多様な作物体系に必要とされ、農業界の各方面から関心を集め続けている。



グリーンブス・エンタープライズ社の6輪トラックはキャタピラー社の430馬力エンジンを搭載。

## Ploughing a new furrow in South Africa

南アフリカ

## 南アで新しい畝をプラウで起こす



タイヤ販売業のチューブストーン社は、今年のNAMPO（ハーベストデーの展示会場でプラウコンテストを初めて開催した。グレイン南ア社とタイヤ製造のBKT社と協力して行なったそのイベントの出来は上々だった。

世界のプラウ曳きの名手らが招かれ、コンテストを盛り上げた。ウィリアム・フッド氏（世界プラウ協会会長）とデヴィッド・シル氏（二度の世界プラウ選手権王者）は北アイルランドから、ロナルド・クルター氏（プラウ王者のコーチ）とアンドリュー・ミッチェル氏（2006年の最年少世界王者）はスコットランドから参加した。イベントには展示会の常連客にも参加を呼び掛け、世界王者からの的確なアドバイスを受けることができた。また、会場に大勢集まった将来のプラウ曳きである参加者からも強い関心が寄せられていた。

南アフリカにおいてプラウ選手権を発展させるためにとるべきステップは、全国プラウ選手権の初開催に向け地方大会を催すことだ。全国大会は、来年のNAMPOで開催されることが決定しており、ここで初代の南アフリカ共和国チャンピオンが誕生することになる。この王者は13年にカナダで開催される世界選手権にオブザーバーとして参加し、14年の王者はその年の世界大会にエントリーする予定だ。

今年NAMPOに招待されたプラウのエキスパートらは皆、来場者の反応や関心の高さは予想以上であったことを認めている。デヴィッド・シル氏は次のように話している。

「ショー初日は、スタッフの誰もが心配していたんだ。人々の反応はどうなんだろうってね。でも、会場はすぐに将来のプラウマン・プラウウィメンたちで溢れ返った。それからの4日間で100人近くがプラウコンテストで腕試しをしてくれた」



NAMPOでプラウコンテストに参加する意欲的なプラウマン。ウィリアム・フッド氏をはじめ専門家の厳しい視線がプラウ跡に注がれる。



**Sprayer rides in comfort on a cradle**  
米国

**大型スプレイヤも楽に載れる架台**



必要は発明の母と言うが、ノースダコタ州のマイク・シヨルマイヤー氏も必要に迫られたからこそその発明を手にすることができた。作物生産に加えて散布事業に手を広げていたが、それまで使用していたトラック用架台は大型スプレイヤを運搬するには重量が軽すぎること気が付いたので。

市場や農機販売店を見て回って見たが、結局、同氏の父親でエンジニアのクラレンス氏に相談することにした。その結果生まれた架台は、特許を取得した。ほとんどのメーカーのどの型式の高クリアランススプレイヤにも対応し、トレーラーへの取り付けや取り外しも10分以内に行える。使用しないときは両側を折り畳むことができ、通常運転の邪魔にならない。

この架台の最大の魅力は、重量物を積載できること。他の架台はこれよりも安いが、作りも軽量だ。「うちの重さ22・6tものスプレイヤでも、架台へのダメージを気にせず運べるようになった」と同氏は説明する。また、「狭い裏道で荷物を積んだり降ろしたりするのに、特に便利な設計だ。荷物を降ろし、トラックに乗せる前にリモコンで畳んでおくことができるんだ」と加えた。

トレーラーから架台を完全に取り外す作業も至って簡単で、30分程度を要する。オペレータは架台をトレーラーの台座からジャッキアップし、トレーラーを引き離すだけだ。

これは必要により生まれた発明の典型的な例だ。必要性に応じて製品設計が決まり、設計者の要求を満たすだけでなく、他のオペレータにも販売展開できる。実際、シヨルマイヤー社は現在、コントラクタへの架台の販売で売上を伸ばしており、その60%がカナダ、40%が米国だ。



シヨルマイヤー社製の架台。ほとんどのメーカー・型式の高クリアランススプレイヤに対応可能。使用しない時は油圧操作でトレーラーの荷台の上に折り畳める。より詳しい商品情報はwww.schollmeyerengineering.comのサイトを参照のこと。

**Intelligent weight for the tractor back-end**  
オランダ

**トラクタ後部用のインテリジェントウエイト**



与えられる仕事によって、けん引式または半直装の土耕作業機は、最大のけん引能力を生み出すためにフルスペックの機械よりも重量のあるトラクタを必要とする。問題になるのは、道具からトラクタへの重量転移だが、けん引式の作業機ではこれができない。

この問題に取り組んだオランダのパテール社は、その名も「ピックアップ」を開発した。コンパクトで使い勝手が良く、後輪のウエイトまたは重量バランス用の水バラストの役目をする。後部搭載型のウエイトパックの基本構成は重さ200kg、機体寸法は209×22×86cmだ。けん引式作業機と接続するための4つの複動式スプールバルブとPTOが付いている。作業機との接続にはカテコリーⅢまたはⅣのフックとトップリンクが使用されるため、半直装用に装備されている。

興味深いことに、このピックアップはコンクリートや鉄ではなく、磁鉄鉱でできている。パテール社によると、磁鉄鉱はコンクリートよりも重く、鉄より安い。ピックアップの価格は3000ユーロ（約30万円）。



パテール社のピックアップの標準構成は重さ2,000kg。200kgのウエイトを4つまで付け足すことができる。写真はピックアップに取り付けられた2つの追加ウエイト。